第２期ロジスティクス環境会議

第１回本会議

2006年8月2日（水）14：00～16：00

ホテルニューオータニ　本館１Ｆ　鳳凰の間

次　　第

１．開　　会

２．議長、副議長挨拶

３．第１期の活動と成果

４．議　　事

　１）概要と運営体制について

　２）収支予算について

　３）今後のスケジュールについて

５．行政施策動向について

・経済産業省

・国土交通省

・環境省

・農林水産省

６．閉　　会

以　上

資料1－1
2006.8.2

ロジスティクス環境会議設立までの経緯

社団法人日本ロジスティクスシステム協会（略称、ＪＩＬＳ）では、会員企業を中心として、企業経営と社会システムの重要な機能である物流の高度化、効率化を全体最適なロジスティクスの視点から支援するため、普及啓発、教育、調査等の活動を行ってきた。

環境問題に対しては以下のような活動を通じて、ロジスティクス環境会議を 2003 年 11 月に設立し、活動を展開している。

１．ロジスティクスおける環境問題研究委員会の設置（第１期：1997 年～）

２．「ロジスティクスにおける環境問題研究報告書」の発行（1998 年 10 月）

３．ロジスティクス環境マネジメント調査（ＬＥＭＳ）の開始　（1999 年～）
http://www.logistics.or.jp/search/chart/lems/index.html

４．ロジスティクスにおける環境問題と企業活動シンポジウムの開催（1999 年２月）

５．ロジスティクスにおける環境問題研究委員会の設置（第２期：2001 年～）

６．「２１世紀のロジスティクス コンセプト」の発表（2001 年 10 月）

１）経済活動とロジスティクスのグローバル化
２）より上位の最適化の追求
３）地球環境と地域社会環境への調和
４）２１世紀のロジスティクスシステム
５）理念と目的の達成に向けて
６）産業界が取り組むべき課題と展望

７．「創立１０周年宣言」の発表（2002 年６月）

１）全体最適の需要と供給を支援するロジスティクスシステムの構築
２）環境と調和したロジスティクス活動の実現
３）情報通信技術をはじめとするロジスティクスイノベーションの推進
４）適切なロジスティクス情報の発信と情報交流活動の強化
５）ロジスティクス人材の育成と快適な労働環境整備

８．ロジスティクス環境会議設立準備委員会の設置（2003 年～）

９．第１期ロジスティクス環境会議（2003 年 11 月 13 日～2006 年 3 月 15 日）
http://www.logistics.or.jp/green/report/06_report.html

以　上

ロジスティクス環境会議

設立趣意書

地球温暖化や大気汚染、廃棄物等の環境問題を解決し、次世代に健全な地球環境と社会環境を継承するためには、これまでの大量消費型の社会から、循環型社会への転換が強く求められております。

経済活動における環境負荷を低減するためには、個人の意識改革を促すと同時に、企業の社会的責任において、継続的にそれを実現する仕組みを構築する必要があります。

そのためには、ストックとフローを最適化するロジスティクスの視点から、設計・開発・製造・販売・物流の仕組みを横断的に見直さなければなりません。また、日常の物流諸活動においても、源流段階から環境負荷の低減を考慮すると共に、使用後の適切な処理と円滑な再使用ないし再生使用を図るべきです。

社団法人日本ロジスティクスシステム協会は、1997 年からロジスティクスおける環境問題の研究・調査を重ねて参りました。2001 年には、『２１世紀のロジスティクス コンセプト』の中で、「地球環境と地域社会環境への調和」を提唱し、2002 年の『創立１０周年宣言』では、「環境と調和したロジスティクス活動の実現」をミッションの一つとして定めました。

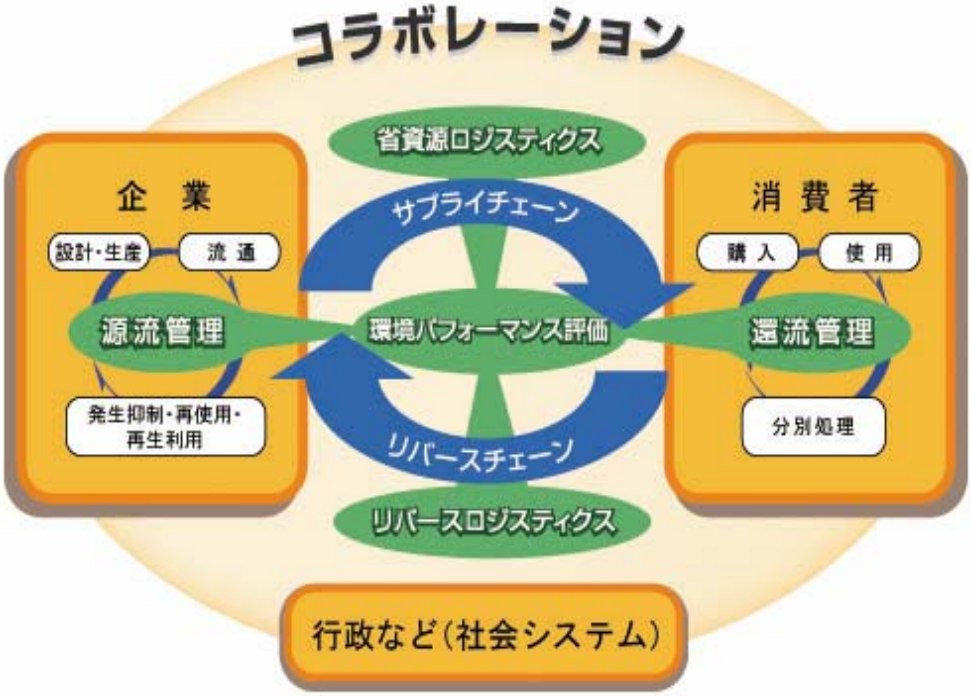
その活動の蓄積を基盤として、企業や業界の枠を越えて、産業界が行政や学界等と共同し、国際的にも評価され得る環境と調和した循環型社会の体系的なロジスティクスシステムを構築し、その普及啓発を図ることを目的として、ここに「ロジスティクス環境会議」を設立します。

２００３年 １１月１３日

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

ロジスティクス環境会議

循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン



循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン図

調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方まで視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILS は 21 世紀の循環型経済における、ロジスティクス活動のあるべき姿として

「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、

「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。

（第 1 回本会議／2003 年 11 月 13 日）

「ロジスティクス環境宣言」

ロジスティクス環境会議およびそのメンバーは、循環型社会を実現するため、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、以下の活動に積極的に取り組むことを宣言する。

１．自らの環境負荷を低減する

自らの活動によって発生する環境負荷低減の目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

２．環境負荷低減に取り組む企業を増やす

関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

３．情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する

活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

２００６年3月１５日

社団法人日本ロジスティクスシステム協会

ロジスティクス環境会議

資料１－２
2006.8.2

第２期ロジスティクス環境会議
組織体制（案）

（敬称略）

１．本会議

議　長：三村　明夫　(社)日本ロジスティクスシステム協会　会長
(新日本製鐵(株)　代表取締役社長)

副議長：後藤　卓也　(社)日本ロジスティクスシステム協会　副会長
（花王(株)　取締役会　会長）

副議長：岡部　正彦　(社)日本ロジスティクスシステム協会　副会長
（日本通運(株)　代表取締役会長）

副議長：鈴木　敏文　(社)日本ロジスティクスシステム協会　副会長
((株)イトーヨーカ堂　代表取締役会長 CEO）

２．企画運営委員会

委 員 長：杉山　武彦　一橋大学　学長

副委員長：増井　忠幸　武蔵工業大学　環境情報学部　学部長

副委員長：高橋　信直　新日本製鐵(株)　営業総括部　部長

副委員長：荒木　恒美　日本通運(株)　環境部長

３．グリーン物流研究会

幹　事：下村　博史　(株)日本総合研究所　研究事業本部　上席主任研究員

４．委員会

１）グリーンサプライチェーン推進委員会

委員長：山本　明弘　(株)日通総合研究所　物流技術環境部　環境グループ　担当部長

２）ＣＯ２削減推進委員会

委員長：増井　忠幸　武蔵工業大学　環境情報学部　学部長

以　上

第２期ロジスティクス環境会議
企画運営委員会　委員（案）

（敬称略　会社名50音順）

1	委員長	杉山　武彦	一橋大学　学長
2	副委員長	増井　忠幸	武蔵工業大学　環境情報学部　学部長
3	〃	高橋　信直	新日本製鐵（株）　営業総括部　部長
4	〃	荒木　恒美	日本通運（株）　環境部長
5	委員	小西　俊次	愛知陸運（株）　代表取締役　専務
6	〃	恒吉　正浩	味の素（株）　食品カンパニー　物流企画部　企画グループ長
7	〃	一ノ瀬　高	（株）イトーヨーカ堂　物流業務改善　プロジェクトリーダー
8	〃	内海　実	花王（株）　ロジスティクス部門　統括
9	〃	山口　雅史	キヤノン（株）　ロジスティクス本部　環境物流推進課長
10	〃	山田　英夫	国分（株）　人事総務部　環境担当　課長　兼　物流統括部　課長
11	〃	河野　義信	新日本製鐵（株）　営業総括部　マネジャー　（物流技術）
12	〃	高松　孝行	トヨタ自動車（株）　物流企画部　主査
13	〃	伊藤　照敏	トヨタ輸送（株）　代表取締役 副社長
14	〃	山本　明弘	（株）日通総合研究所　物流技術環境部　環境グループ　担当部長
15	〃	下村　博史	（株）日本総合研究所　研究事業本部　上席主任研究員
16	〃	麦田　耕治	日本通運（株）　環境部　専任部長
17	〃	飯島　康司	三菱電機（株） ロジスティクス部　環境・包装グループ　兼　企画グループ　専任
18	〃	菅田　勝	リコーロジスティクス（株）　経営管理本部　副本部長

以　上

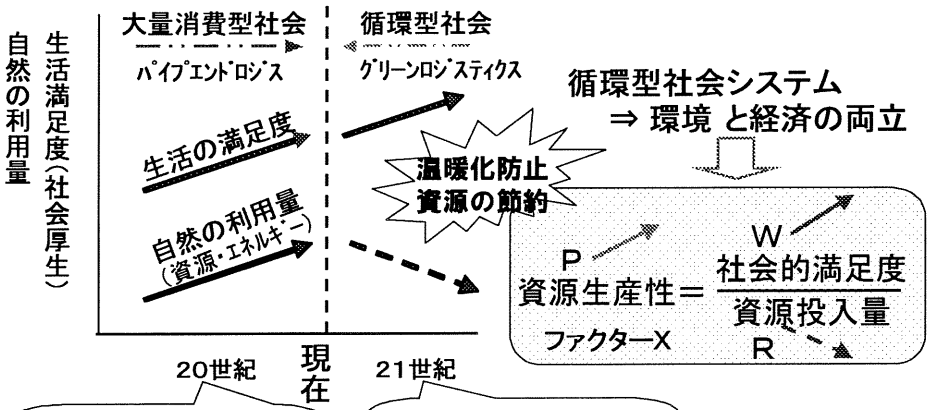
資料2
2006.8.2

第1期ロジスティクス環境会議 活動と成果

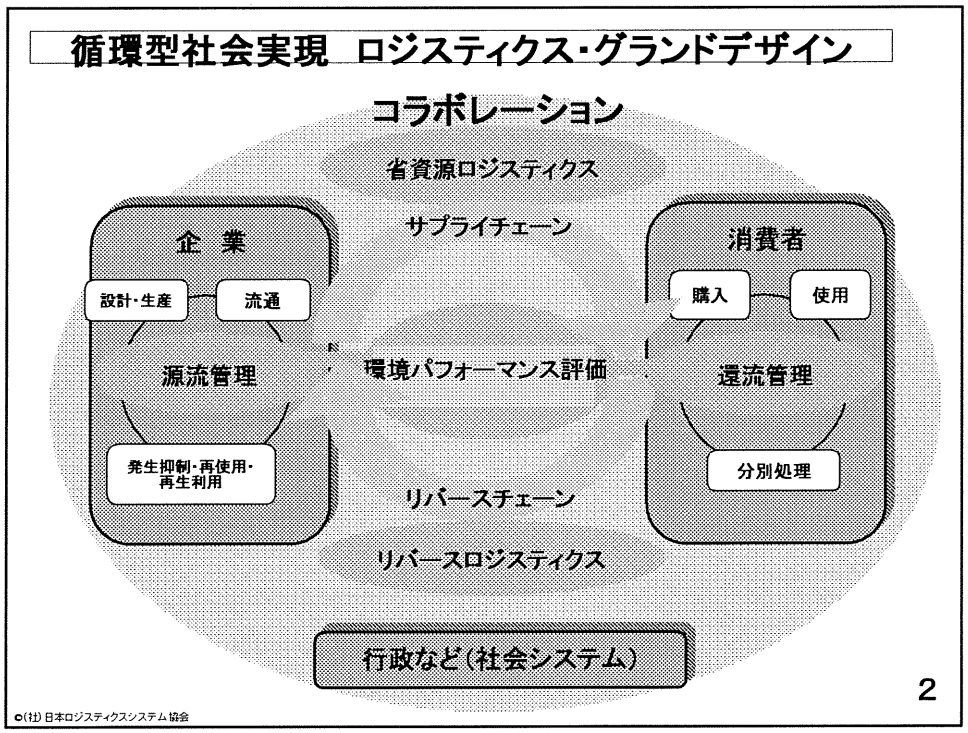
菅田　勝
第2期ロジスティクス環境会議
企画運営委員
リコーロジスティクス(株)
経営管理本部　副本部長

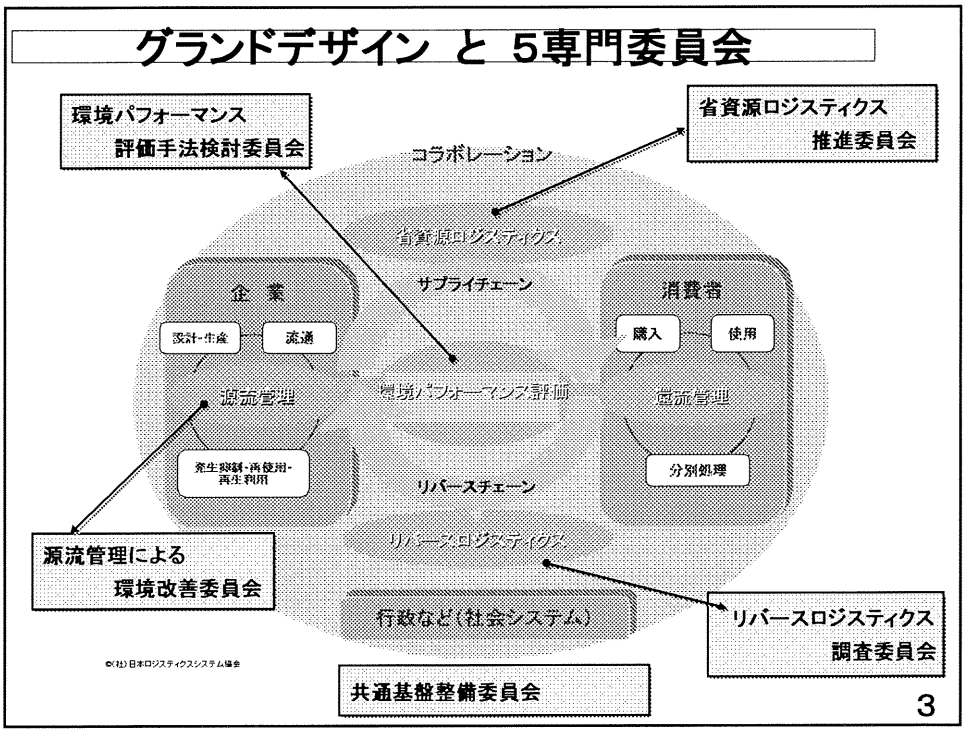
持続可能社会　資源循環の重要性

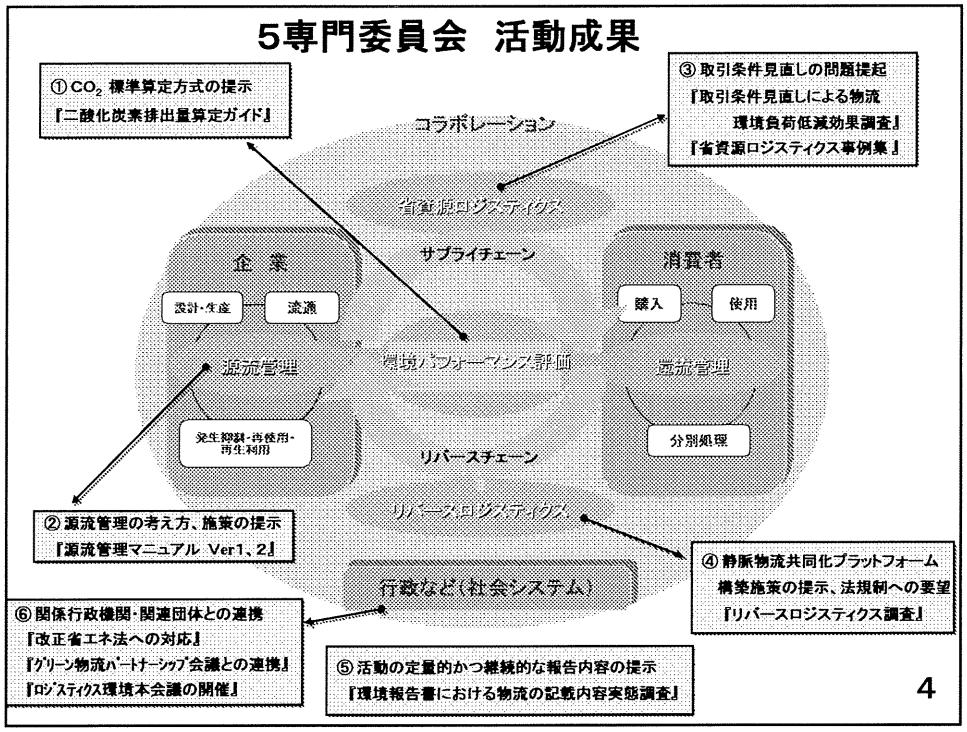
自然の利用量を減らしつつ、生活満足度を高める。
地球資源(含 エネルギー)を大切に、次世代に残す。



1


循環型社会実現　ロジスティクス・グランドデザイン
コラボレーション
省資源ロジスティクス
サプライチェーン
企　業
設計・生産
流通
源流管理
発生抑制・再使用・再生利用
環境パフォーマンス評価
消費者
購入
使用
還流管理
分別処理
リバースチェーン
リバースロジスティクス
行政など（社会システム）
2
©(社) 日本ロジスティクスシステム協会


グランドデザイン と 5専門委員会
環境パフォーマンス
評価手法検討委員会
省資源ロジスティクス
推進委員会
コラボレーション
省資源ロジスティクス
サプライチェーン
企　業
設計・生産
流通
源流管理
発生抑制・再使用・再生利用
環境パフォーマンス評価
消費者
購入
使用
還流管理
分別処理
リバースチェーン
リバースロジスティクス
源流管理による
環境改善委員会
行政など（社会システム）
リバースロジスティクス
調査委員会
©(社) 日本ロジスティクスシステム協会
共通基盤整備委員会
3



ロジスティクス 環境宣言

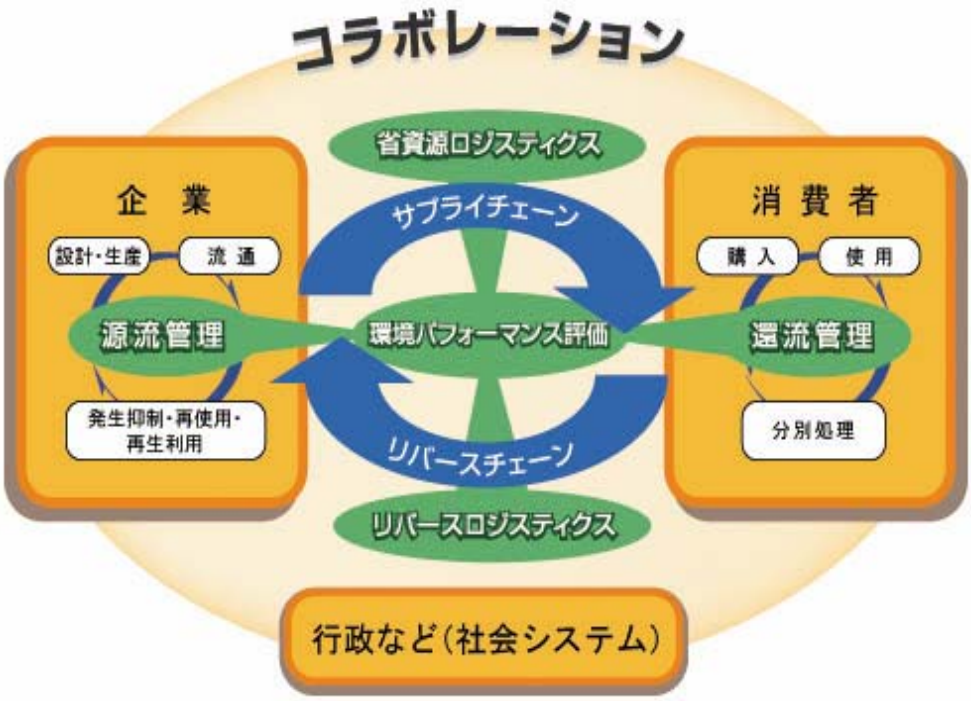
2006年3月15日
ロジスティクス環境会議

1. 自らの環境負荷を低減する
2. 環境負荷低減に取り組む企業を増やす
3. 情報を発信し、
   循環型社会の形成に寄与する

5

循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン

第１期の活動は、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取り組む企業を増やすため、以下のグランドデザインに基づき、委員会による課題解決に向けた検討を重ね、活動を推進した。



循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン図

調達、生産、流通、消費の諸活動とそれらの過程を経て発生する廃棄物の処理の行為は、環境汚染や環境破壊など、環境に対して様々な負荷を与えます。私達の世代は健全な地球環境と社会環境とを（人類生存の大前提である）最も重要な財産として、将来の世代に引き継ぐ責務を有しています。その責務を果たすべく、ロジスティクスにおいても、環境への調和、環境との共生、環境改善への積極的貢献、を最優先に考えねばなりません。

ロジスティクスには、再使用や循環などの視点に加え、素材の選択や廃棄物の処理のあり方まで視野を広げ、環境への負荷に適切に配慮しつつ、費用対効果を最適化することが必要です。

JILS は 21 世紀の循環型経済における、ロジスティクス活動のあるべき姿として

「環境と調和した循環型社会を支えるロジスティクス」を提唱します。

循環型の経済活動を、ロジスティクスを通じて実現したいという思いを込めて、

「循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザイン」を提案します。

（第１回本会議／2003 年 11 月 13 日）

第１期ロジスティクス環境会議
概要と運営体制

１．概　要

１）名　称：第１期 ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan (CGL in Japan)

２）目　的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築
～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

３）目　標：行政・自治体・大学等の研究機関・関連団体との連携を図りながら、環境と調和したロジスティクス方針・活動を通じて、循環型社会を実現するロジスティクスの構築に取組む企業を増やす。

４）期　間：２００３年１１月～２００６年３月

５）参加メンバー：１０９社（１自治体含）

６）活動内容：ロジスティクス環境会議（本会議）のもとに企画運営委員会を設け、グランドデザインのそれぞれのミッションに基づき、主体的に問題点・課題などを議論し、アウトプットを創出するための活動を行い、その活動は委員会を設けて実施される。

(1)環境パフォーマンス評価手法の検討
(2)源流管理※による環境改善の検討
(3)省資源ロジスティクスの推進
(4)リバースロジスティクスの調査
(5)共通基盤の整備

※源流管理：企業の社会的責任として、商品・サービスのライフサイクル全体にわたって環境負荷を低減するため、ロジスティクスの視点から、リデュース(発生抑制)、リユース(再使用)、リサイクル(再生利用)の実現を目指し、製品や荷姿の設計、物流プロセスを構築すること。

第1期ロジスティクス環境会議　組織図

2006.3.15時点

※敬称略

議　長：張　富士夫
トヨタ自動車㈱　取締役副会長

副議長：鈴木　武
味の素㈱　技術特別顧問

副議長：岡部 正彦
日本通運㈱　代表取締役会長

副議長：鈴木 敏文
㈱イトーヨーカ堂　代表取締役会長 CEO

メンバー：109社

ロジスティクス
環境会議（本会議）

委 員 長：杉山　武彦
一橋大学　学長

企画運営委員会

広報・普及
専門委員会

委 員 長：小西　俊次
愛知陸運㈱
代表取締役 専務

【事務局】
ロジスティクス
環境推進センター

環境パフォーマンス評価手法検討委員会　【32名】
委 員 長：増井　忠幸　武蔵工業大学　環境情報学部 教授

源流管理による環境改善委員会　【31名】
委 員 長：小西　俊次　愛知陸運㈱　代表取締役 専務

省資源ロジスティクス推進委員会　【55名】
委 員 長：山本　明弘　㈱日通総合研究所　物流技術環境部
環境ｸﾞﾙｰﾌﾟ 担当部長

リバースロジスティクス調査委員会　【39名】
委 員 長：菅田　勝　リコーロジスティクス㈱　経営管理本部 副本部長

共通基盤整備委員会　【13名】
委 員 長：津久井英喜　諏訪東京理科大学　経営情報学科 教授

ロジスティクス環境会議
第１期の活動と成果について

１．グランドデザインに基づく課題解決に向けた主な活動成果

委員会	活動成果
①環境パフォーマンス評価手法検討委員会	ロジスティクス分野における環境パフォーマンス（輸配送活動）の標準的な算定方法の提示
②源流管理による環境改善委員会	ロジスティクス、物流関係者として取り組むべき源流管理の考え方、施策の提示
③省資源ロジスティクス推進委員会	取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に基づく問題の提起
④リバースロジスティクス調査委員会	循環型社会を実現するために不可欠な静脈物流共同化プラットフォーム構築策の提示
⑤共通基盤整備委員会	企業の物流活動の定量的かつ継続的な報告内容の提示

２．関係行政機関と関連団体との連携による啓発・普及活動の推進

⑥改正省エネ法 ・関係行政機関	エネルギーの使用の合理化に関する法律の一部を改正する法律（以下、改正省エネ法）施行に向けた対応 ・荷主判断基準ならびに輸送事業者判断基準に対し、ＣＧＬメンバーの意見要望を取りまとめ、経済産業省と国土交通省へ意見要望書を提出し、「算定方法」等に対する意見要望が反映。 ⇒算定方法：燃料法、燃費法、改良トンキロ法
⑦グリーン物流パートナーシップ会議 ・関係行政機関 ・関連団体	グリーン物流パートナーシップ会議（以下、ＧＰ会議）との連携による、啓発・普及活動の推進強化。 ・経済産業省、国土交通省、日本物流団体連合会、日本経済団体連合会（オブザーバー）との連携 ・多くの関係者へ情報を発信するため、ＧＰ会議とＣＧＬが共同で「ロジスティクス環境シンポジウム」を開催。
⑧本会議 ・関係行政機関	本会議を４回開催 ・関係各省や報道機関に参加いただき、活動成果を発表。

循環型社会を実現するロジスティクス・グランドデザインを推進するため、環境負荷低減活動に「取り組む企業」を増やすための基盤整備活動を展開してきた。加えて、各種施策の提示および活動支援ツール等を作成した。

委員会活動を通じた検討成果の概要

１．『二酸化炭素排出量算定ガイド／トラック輸送版』

トラック輸配送におけるＣＯ２排出量を算出するため、環境負荷指標の体系や標準的な算定方法※とその事例をまとめ、改正省エネ法の判断基準に対する意見・要望を提示した。

⇒判断基準に定められる算定方法として、（改良）トンキロ法に加え、「燃料法」「燃費法」を追加することを提案し、採用された。

※燃料法（標準）、燃費法（準標準１）、改良トンキロ法（準標準２）、従来トンキロ法（簡易）

２－１．『源流管理マニュアル（Ver.1)』

荷主企業が自ら環境負荷の発生源としの認識を持ち、環境負荷を最小限に留めるための管理するポイント（包装資材削減、輸配送効率化等）をマニュアルとしてまとめている。

２－２．『源流管理マニュアル（Ver.2）／モーダルシフト推進チェックシート・資料集』

荷主企業がモーダルシフト推進を検討、計画する際に考慮すべき事項や関係者調整事項など、ＰＤＣＡの検討プロセスに沿ったチェックシート、比較評価シート、関連データなどが盛り込まれた資料集としてまとめている。

３－１．『省資源ロジスティクス事例集』

モーダルシフト、共同物流、包装資材低減の各施策について、食品・流通（36 事例）機械・精密機器（35 事例)、素材（14 事例）の事例を紹介している。

３－２．『取引条件見直しによる物流の環境負荷低減効果に関する調査報告書』

省資源・省エネルギー化の推進を阻害している主要因と考えられる取引条件の実態とその影響度を定量的に把握することを目的として、加工食品、家電製品、パソコン等を取り扱っている企業を対象に、ロット、リードタイム、配送回数、荷下ろし・待機時間、物流コスト、積載率などに関する物流実態調査を行った。さらに、取引条件見直しによるＣＯ２低減効果を定量的に推計し、その評価をまとめている。

４．『静脈物流共同化プラットフォーム構築調査（リバースロジスティクス調査報告書)』

今後本格的に必要とされるリユース、リサイクルに関わる物流のあるべき姿を描くため、家電・ＯＡ機器、自動車、食品、物流（包装・梱包資材）の４分野の調査活動を行い、リバースロジスティクスの構築を促進する共同化等の施策と廃掃法等の環境関連法規の柔軟な運用改善の要望（７項目）をまとめている。

５．『企業の環境報告書における物流に関する記載内容実態調査』

製造業、流通業等 186 社の環境報告書における物流に関する記載内容を調査し、環境負荷低減活動の事例が豊富に掲載されている。反面、ＣＯ２排出量の算定結果を掲載している企業が少なく、『二酸化炭素排出量算定ガイド／トラック輸送版』の普及の必要性等をまとめている。

資料3
2006.8.2

第２期ロジスティクス環境会議
概要と運営体制（案）

１．概要

１）名　　称：第２期ロジスティクス環境会議
Conference on Green Logistics in Japan（CGL in Japan）

２）目　　的：循環型社会を実現するロジスティクスの構築
～個人が変わる、企業が変わる、物流が変わる～

３）方　　針：循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、産官学、発荷主・着荷主・物流事業者間の連携のもと、第１期の活動成果を活用し、ロジスティクス領域の環境負荷低減活動を推進します。さらに、改正省エネルギー法、地球温暖化対策推進法等にも対応し、物流分野における二酸化炭素等の環境負荷低減活動を積極的に推進する。

４）目　　標：循環型社会の実現に向けて、物流分野の環境負荷低減を経営の重要課題として認識し、委員会ならびに研究会等の活動を通じて、次の「ロジスティクス環境宣言」（2006.3.15採択）の実現を目指す。

「ロジスティクス環境宣言」

①自らの環境負荷を低減する
メンバー企業自らの活動によって発生する環境負荷低減目標を定め、目標達成に向けたマネジメントサイクルを推進する。

②環境負荷低減に取り組む企業を増やす
関係企業とパートナーシップを築き、共に環境負荷低減に向けた取り組みを推進する。

③情報を発信し、循環型社会の形成に寄与する
活動を通して明らかになった課題については、企業・行政・団体等の関係者へ情報発信を行い、循環型社会の形成に寄与する。

５）期　　間：２００６年８月～２００８年３月

６）参加対象：(社)日本ロジスティクスシステム協会（ＪＩＬＳ）の会員
ロジスティクス領域の環境負荷低減活動を実践していきたいと考えている、製造業、流通業、物流事業者、情報サービス業、調査・研究機関、自治体等の方々。

２．運営体制

１）ロジスティクス環境会議（本会議）

⑴役　割

①ロジスティクス環境会議全体（本会議、委員会、研究会等）の基本方針を定める。

②本会議で決議すべき事項または企画運営委員会から議案として提示された事項に対する合意形成を行う。

③合意事項の普及啓発と関係者に対する提言を行う。

⑵構　成

①議長・副議長

議　長：三村　明夫　(社)日本ロジスティクスシステム協会　会長
（新日本製鐵㈱　代表取締役社長）

副議長：後藤　卓也　(社)日本ロジスティクスシステム協会　副会長
（花王㈱　取締役会　会長）

副議長：岡部　正彦　(社)日本ロジスティクスシステム協会　副会長
（日本通運㈱　代表取締役会長）

副議長：鈴木　敏文　(社)日本ロジスティクスシステム協会　副会長
（㈱イトーヨーカ堂　代表取締役会長 CEO）

②企業・自治体メンバー：代表登録者

③特別メンバー：ロジスティクスおよび環境問題に取組む学識経験者・関連団体・消費者団体等

④オブザーバー：経済産業省、国土交通省、環境省、農林水産省

２）企画運営委員会

⑴役　割

①ロジスティクス環境会議全体の活動における基本方針案を策定し、本会議に提案する。

②本会議において合意された基本方針に基づき、活動方針を策定し決定する。

③関係者の環境負荷低減活動の推進にあたって、解決が求められる問題、課題について検討する。

⑵構　成

メンバー企業ならびに学識経験者等で構成する。

３）研究会および委員会の設置

⑴役　割

研究会：環境負荷低減活動を推進するため、参加メンバーやゲストスピーカからグリーン物流の各種施策の先進事例の情報収集、関連する施設の現場見学等を通じて、実践的な改善施策の研究を行う。

委員会：循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、ロジスティクス領域の環境負荷低減活動を推進するうえで、発荷主、着荷主、物流事業者間で協議すべき問題点、課題を整理し、解決の方向性や施策を検討する。さらに、必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。

⑵構　成

研究会および委員会は、本会議メンバーの実務担当者ならびに学識経験者等で構成する。

１）グリーン物流研究会

環境負荷低減活動を推進するため、参加メンバーやゲストスピーカからグリーン物流の各種施策の先進事例の情報収集、関連する施設の現場見学等を通じて、実践的な改善施策を研究する。

■研究テーマ等の例

①輸配送のモーダルシフト、共同物流の先進企業事例の研究

②包装資材のリターナブル化等の先進企業事例の研究

③改正省エネルギー法に対応したトンキロの把握、計画書、報告書の作成方法や先進企業事例の研究

※標準的な算定方法（燃料法・燃費法・改良トンキロ法）によるＣＯ２排出量把握など含む

④施設見学会（リサイクル施設、モーダルシフトの施設の見学など）の実施

⑤講習会（行政施策、各種先進企業事例等）の実施

２）委員会

循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けて、ロジスティクス領域の環境負荷低減活動を推進するうえで、発荷主、着荷主、物流事業者間で協議すべき問題点、課題を整理し、解決の方向性や施策を検討する。さらに、必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。

（１）グリーンサプライチェーン推進委員会

製品の企画、設計等の源流段階から調達、生産、販売、回収等の物流プロセスの環境負荷を低減するため、発荷主、着荷主、物流事業者間で問題、課題を共有し、解決の方向性、施策を検討する。さらに、必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。

■主な検討テーマ（課題）の例

①源流管理の推進

※メーカが製品の企画、設計段階から物流の環境負荷を考慮した、円滑なリデュース、リユース、リサイクルを推進する製品サイズ、荷姿等のあり方等の研究

②環境負荷とコストを低減する物流サービスのあり方

※環境負荷と経済効率を考慮した物流に係わる取引条件（ロット、配送頻度等）のあり方等の研究

③その他

■成果イメージ

循環型社会を実現するロジスティクスの構築に向けた環境負荷低減活動の事例集、推進ガイドラインなど

（２）ＣＯ２削減推進委員会

各企業のＣＯ２削減活動を推進するため、改正省エネルギー法等の関連法制度への対応も踏まえ、荷主企業と物流企業のパートナーシップによる継続的な改善活動を推進するうえでの問題点、課題を整理し、解決策を検討する。

さらに、必要に応じて企業、行政、団体等の関係者への提言を行う。

■主な検討テーマ（課題）の例

①荷主企業と物流企業の連携による継続的な改善活動の推進

※荷主企業と物流企業のパートナーシップのあり方、ＣＯ２の算定と低減活動に必要なデータの収集・交換と改善施策等の研究

②改正省エネルギー法等の関連法制度への対応

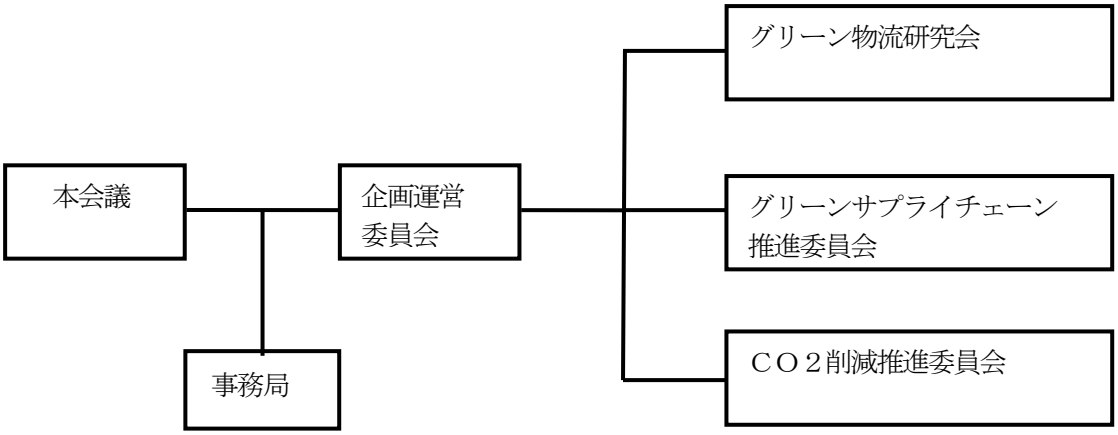
※荷主企業、物流企業において、運用段階で明らかになった課題の整理、対応策等の研究

③その他

■成果イメージ

荷主企業と物流企業によるＣＯ２削減活動推進マニュアル、関連法制度への提言　など

４）組織図



資料４
2006.8.2

第２期ロジスティクス環境会議
２００６年度収支予算（案）

■期　間：２００６年８月２日～２００７年３月３１日

【収入の部】

(単位：千円)

科　目	予算額	摘　要
参加料収入	9,000	@100×90 社
JILS 助成金	12,800	
合　　計	21,800	

【支出の部】

(単位：千円)

科　目	予算額	摘　要
会議運営費	12,000	会場費、資料作成費、報告書作成費 本会議２回、企画運営委員会４回、 委員長ミーティング３回 正副委員長ミーティング４回、 各委員会４回、 研究会５回
調　査　費	2,500	調査費、資料収集費、分析費
広　報　費	2,700	CGL ジャーナル発行費：冊子版２回 CGL ニュース発信費：メール版１６回 ホームページ作成費
ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑ運営費	2,100	シンポジウム１回
管　理　費	1,500	事務管理費、通信費、交通費、雑費
予　備　費	1,000	
合　　計	21,800	

資料5
2006.8.2

第２期ロジスティクス環境会議
今後のスケジュール（案）について

１．期間　2006 年８月～2008 年３月

２．本会議の開催　３回（開催時期：2006 年８月２日、2007 年３月、2008 年３月）

３．企画運営委員会の開催　10 回

４．研究会、委員会の開催
①グリーン物流研究会（13 回）

②グリーンサプライチェーン推進委員会（10 回）

③ＣＯ２削減推進委員会（10 回）

５．情報提供
①ＣＧＬジャーナル（冊子）（４刊発行）

②ＣＧＬニュース（メールマガジン）（毎月２回程度発行）

６．シンポジウム、講演会等の開催（３回）

＜アンケート実施について＞

第２期ロジスティクス環境会議 研究会、委員会では、活動テーマを検討するために下記の要領でアンケートを実施いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

１．実施期間：2006 年８月 15 日～25 日（予定）
２．対象者　：研究会、委員会登録者
３．実施方法：メールによる送付及び回答

第２期ロジスティクス環境会議　スケジュール（案）

第2期CGL【2006.8～2008.3】	8月	9月	10月	11月	12月	2007年1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2008年1月	2月	3月
1. 本会議	第1回 8/2							第2回 3/中												第3回 3/中
2. 企画運営委員会		第1回 9/上		第2回 11/上		第3回 1/下		第4回 3/上		第5回 5/下		第6回 7/中		第7回 9/中		第8回 11/中		第9回 1/下	第10回 2/上	
3. 研究会、委員会																				
①グリーン物流研究会 2006年度5回開催）	▲	●	●	●	●		●		●	●	●			●	●	●	●		●	
②グリーンサプライチェーン推進委員会（2006年度4回開催）	▲	●		●		●	●			●		●		●		●	●		●	
③CO2削減推進委員会（2006年度4回開催）	▲	●	●		●		●		●		●		●		●		●		●	
4. 媒体を通じた情報提供（全メンバー向け）																				
①CGLジャーナル（冊子）				第1号				第2号				第3号								第4号
②CGLニュース（メールマガジン）（月2回発行）		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
※シンポジウム					●							●					●			

例：CO2とコスト低減の課題に関するシンポジウムの開催

研究会、委員会
2006年度活動計画（案）
検討

研究会、委員会 活動テーマアンケート実施
・アンケート実施期間：8月15日～25日（予定）
・アンケート対象者　：研究会、委員会登録者